

「ひろがるアート」展 ミュージアム・コンサート

いきるは息る、
呼吸することが生きること、
呼吸がもたらす生きるエネルギーを、
音から体感する為のコンサート

2010年10月30日(土曜日) 午後3時開演(午後2時30分開場)
三重県立美術館講堂



鈴木 昭男(すずき あきお)

1941年平塚に生まれる。
60年代より、音の自修イベントを始め、70年代には一連の創作楽器を制作。なかでも、創作楽器「アナラボス」は彼の音具の代表作となった。1976年に「音のオブジェ展」(南画廊、1976)を開催、1978年のフェスティバル・ドートンヌ(パリ、1978)以後、世界各地のフェスティバルに招待される。1988年に京都・網野で行われた子午線上に一日座り、その場の音を聴くプロジェクト「日向ぼっこの空間」は彼のサウンド・アートの代表作となり、その後、音を聴くことをテーマにした音のインスタレーション作品「点音(おとだて)」は、ベルリン、パリ、台北、和歌山など国内外の各地で行われている。近年は、弥生遺跡より出土した古代笛から構想をえた自作の土笛による演奏を行い、2009年11月には、その土笛のルーツを追い、京丹後市から下関まで1000kmの道程を各地の弥生遺跡を訪ね、演奏した1ヶ月に渡る自転車旅行「さねとり」を敢行した。



山内 桂(やまうち かつら)

1954年別府市生まれ。
松山の大学でサクソと即興演奏を始め、作曲も行。また、ミルフォード・グレイブス、ハン・ベニク、デレク・ベイリー、トリスラン・ホンジンガー等の松山公演を主催。以後、23年半を会社員として過ごす傍ら、地方都市で即興演奏や自己のグループで自主的な音楽活動を続け、自身の音楽を磨く。
2002年10月以降音楽活動に専念し、音そのものの響きと細胞レベルのコミュニケーションによる独自のサウンド・アート「salmo sax」によるソロを中心とした演奏活動を国内外で行う。2008年以後、あたらに「salmo sax ensemble」の活動も開始、そのワークショップも開催。2010年6月にはヨーロッパの様々な演奏シーンに招かれ、この7月に帰国したところ。

藤島 寛(ふじしま ゆたか)

1949年京都市生まれ。
専門は性格心理学、なかでもパーソナリティ特性の遊戯性、宗教性、空想性に関心を持っている。主要な著書、論文には、「5因子性格検査の理論と実際」(共著、1998、北大路書房)、「遊び心の探究」(1997、京都市立芸術大学音楽学部研究紀要)などがある。
80年代より、ジョン・ケージ(米)、コーネリアス・カーデュー(英)、マウリツィオ・カーゲル(独)、ホセ・マセダ(フィリピン)など、現代音楽における実験的音楽を取り上げたコンサートを企画。野外や美術館展示会場など、通常の音楽ホールではないところでのプロジェクトを数多く行う。主要な企画/制作に、水戸芸術館での、ポンルタンスキー展、ダニエル・ビュラン展、ジョン・ケージ展に呼応した展覧会場での様々なイヴニング・イベント、鈴木昭男の「点音II」(1998、ストラスブル)、世田谷美術館ロビーでの「身体の音楽」(1998)、京都国立近代美術館での「ノイズレス」展(2007)などがある。音楽や美術に関する論文には、「可視的な音楽」(『視る』395号、2001)、「ART RULES」(『視る』436号、2008)、「鈴木昭男展 点音 II-date」カタログ・テキスト(三岸節子記念美術館、2008)などがある。

タイトル コンサート「いきいきい! / breathing」
日時 2010年10月30日(土曜日) 午後2時30分開場、午後3時開演
会場 三重県立美術館講堂(座席数150)
主催 三重県立美術館 (財)三重県立美術館協会
協力 三重県立美術館友の会
企画 藤島寛
入場料 無料(事前申し込み不要)
出演者 鈴木昭男(サウンド・アーティスト)、山内桂(サクソ)
プログラム 鈴木昭男「古代笛」、山内桂「即興演奏」、デュオ「いきあう」(鈴木昭男+山内桂)
鼎談「津から生まれたプロジェクト—文化を支えているもの」
(藤島寛(心理学)+山内桂+鈴木昭男)